

「信徒くんは二つの試練をクリアすることができました」

「残りも二つと、折り返し地点、という感じですね♡ 聖根とも相性が良いようで……」
「とても気持ちのいいオナホになれる才能がありそうです……ああ、すみません……♡
使徒に着実に近づいているのですから、もっと喜んでくれていいのですよ？ と言いたかったのです」

「他意はありませんよ？ 精神的にも成長してるのが見ていて分かりますし。この調子で次の試練も乗り越えていきましょうね♡」

「では次の試練に入る前に、簡単に説明をしますね」

「第三の試練の内容は……」

「ロウソクが燃え尽きるまで、射精をすることを禁じます。ええ、禁欲を示してください……それが今回の試練の内容です」

「……ふむ、第二の試練と矛盾している、ですか？」

「違いについて、言葉で説明することも可能ですが……違いは試練を受ければ、すぐに実感することができますはずですよ。この試練も、キミの信仰深さで乗り切ってみてください。きっとできますよ……♡ 期待していますからね……♡」

「ではロウソクに火を灯します……」

「はい、ではキミに試練を課していきますね……♡ 私のおちんぼを見てください……これは神より賜りし聖根で、とても神聖なものです。そして、キミにもおちんぼがあります……残念ながら、こちらは劣情により反り立つものですね。同じように見えますが、ここに決定的な違いがあります」

「みだらに射精をしてしまうことは体が信仰よりも欲に支配されている、ということを示していますからね」

「そこで……信徒くんには耐えてもらう必要があるのです……♡ んっ♡ どうですか？ ふふふっ♡ ふたなりチンポを、キミのおちんぼに押し付けました……♡ おちんぼが刺激されて……気持ちいいですよね？」

「キミのおちんぼは今まさに、欲に支配されようとしているところなのです……ふふっ♡ そもそも、祝福とオナニーは精を吐き出すという点では一緒ですが、根本が違います。祝福は、聖根に祈りを捧げる行為に対し、オナニーは高ぶった劣情を、収めるためだけに行う行為なのです」

「オナニーという行為はとても気持ちいいのですが、快樂のために、己の欲を満たすためだけにする行為です」

「そこには新たに生命を授かるといった神秘的なものからは完全に離れてしまっているのです。そのためよくない行為ということになりますね」

「例えば……こういうのはどうでしょう？ ふふふっ♡ キミのおちんぼを私がシゴいてあげますね……んっ……はぁ……♡ 先ほど、射精しているのに……少しシゴいただけ……んあっ♡ 大きくなってきていますね……ふふふっ♡」

「シコシコされると、気持ちいいですよね？ あぁ……信徒くんのおちんちんが、もうこんなにパンパンに……♡ これが、オナニーですよ……信徒くん……♡ このまま射精した場合は、キミは試練が失格となってしまいます……♡」

「だから、我慢しないとダメなんです……♡ 持ちいいですよね？♡ シゴかれて、気持ちよくなったおちんぼから、射精したいですよね？♡ ふふふっ♡……もう、出ちゃいますか？ ダメですよ？♡ 我慢です、これは試練なのですから……♡」

「ふうっ、ふー……はう、んふっ……あん。んっ……はぁ、はぁ……すぐ体が震えてますよ？ いっぱい我慢してるんですよ♡ シコシコされて、精液出したいけど……我慢できる偉い子ですねえ……♡ ふふふっ♡」

「先ほどアナルに入れられて、いっぱい出しましたもんね♡ 気持ちよかったですよね？♡ また、あの感覚を味わいたいですよね？♡ 我慢、我慢ですよ……信徒くん……♡ ふふふっ♡」

「あぁっ……すごいですねえ……ちゃんとできてるじゃないですか……♡ さすがですよ……信徒くん……やはりキミには試練を乗り越えるだけの心の強さがあるのでしょうか……♡」

「では、こういうのはどうでしょう？」

「おちんぼをシゴかれるだけではなく……体の敏感なところをイジってあげますねえ♡」

「あらあらあら……♡ 触ってもいなかったのに……信徒くんの可愛い乳首はもうこんなに硬くなっているんですよ……♡」

「えいっ♡ ふふふっ♡ 乳首をコリコリされながら、おちんぼシゴかれて気持ちいいですねえ♡ ビクンビクンって体は跳ねてるのに、射精しないのは偉いですよ……♡」

「さっき感じた、あの快感を……今のキミはちゃんと我慢できているんですよ……♡ 知っていますか？ 射精の快感は、我慢すればするほど、強いものになるんですよ？……だから、今のキミが射精したら……さっきよりも強い快感を感じることができるといえますね……♡」

「ふふふふっ♡」

「どのくらい気持ちいいか、経験したいとは思いませんか？」

「乳首イジられながらだったら、すぐに射精できると思いますよ……♡ 頭の中が真っ白になるくらいに射精……しないんですか？ 信徒くん……♡ ふふふふ♡ 乳首くらいじゃまだイけないですか？ それなら……キミのお口の中、イジってあげますね……♡ ふふふ♡ だらしなく開いちやっただお口ですわね♡」

「さっきふたなりチンポを入れて貰えて、気持ちよかったですよね？ 今なら、指でぐちゃぐちゃにされるだけでも、気持ちいいんじゃないですか？ ハアッ、ハアッ……ふぁッ……んっ、んぁっ。はぁ、ふう……ふふふっ♡」

「キミの体は、反応しちやってるみたいですよぉ？♡ さっきお口で啜えこんだときのことを思い出しちゃったんですかね？♡ 出したくなったら射精してもいいんですよ？ まあ、その場合は、この試練は失格になりますが……♡」

「まだ我慢しますか？ 欲望に支配されている体を、キミ自身は止めることができますか？♡」

「ふふふ、ふふふふっ♡ お口の中をぐちゅぐちゅしてると、頭の中までかき混ぜられているように錯覚しますよね？ 何も考えられなくなってないですか？ まだ、我慢できますか？」

「もっと気持ちよくなってもいいんじゃないですか？ ね？ 信徒くん♡ よだれを垂らしながら、おちんぼをシゴかれているキミの姿はすごくエッチですよ……♡」

「はぁ、ふう……んっ……♡ ギリギリですけど、まだ我慢できてるみたいですよ……♡ ではもうちょっと、刺激的なところを触ってあげましょう……♡」

「もちろん♡♡ お尻の穴、ですよ♡」

「ふふふ♡ 軽く触れるだけで、キミのアナルはヒクヒクって反応しちゃうんですねえよほどさっきアナルにおちんぼ突っ込まれたのが、気持ちよかったですね♡ 信徒くんのおちんぼも、私の手の中でビクビクしっぱなしですよ？」

「ふふふふ♡」

「じゃあ、おちんぼじゃないですが、指でイジってあげますね……♡ んっ！♡ ふふっ♡ 私の指がずぶずぶ入っていっちゃいましたよ？♡ ホントに、何の抵抗もなく啜えこんじゃうんですから……信徒くんのアナルはエッチなんですよわね♡」

「それなら、いっぱいイジってあげないですかね♡ はい、二本目も入りましたよ♡ 抜き差しするだけじゃなくて……おちんぼの方をグリグリってしてあげますねえ♡ 我慢できるかな？♡ んっ♡ あっ♡ すっ♡ キュウキュウって締まっていますよ♡」

「あっ♡ もう、無理そうですか？♡ ふふふっ、ふふふふっ♡」

「……ここまで我慢したのに、射精、しちゃうんですねえ……♡ んんっ！♡」

「はあ、はう……ふー、ふーっ、んっんん……あらあら……♡ 体のけ反らせながらたくさん出しちゃいましたねえ……♡ 残念ですが第三の試練は失敗、ということになってしまいます……」

「まあ、しようがないですね……なんてだらしないおちんぼなんでしょうか……♡ これくらいの刺激でビュッビュッって射精してしまうなんて……ちゅくっ……♡」

「我慢、できなかつたんですね……♡」

「あれだけ祝福してあげたのに……んちゅっ♡ はあ、ふう……こんなに濃い精子……♡ 出しちゃうなんて……そんなに気持ちよかったですか？ 戒律を破って情けなく射精しちゃうのってどんな気分です？」

「ふふふ♡ イケナイ子ですね……♡」

「さあ、キミには選択肢があります……♡ このまま試練を諦めるか……」

「それとも一回目のように、私の洗礼を受け入れるか……」

「ふふふ……♡ もちろん、洗礼を受け入れてくれるんですね？ 信徒くん……っ♡」

「はい♡ そう言うと思ってましたよ♡」

「では、さっそく行きますので、お尻を向けてくださいねえ……♡ 何度もやっているの、もうそのまま一気に入れちゃいますねえ♡」

「はあ、はあー……あ、んあ……んんっ！♡ はあ、ふう……本当に一気に飲み込んだやいましたねえ♡ 出したばかりのおちんぼも、また勃起しちゃいましたか？ はあ、

ふう……今回の試練の内容を分かっているんでしょうか？」

「ふふふふっ♡ んっ♡」

「いいですよ♡ キミがまたもし、射精してしまったら、その回数分、私のおちんぼで、中に祝福を与えてあげましょう♡ そうすれば、穢れを祓うことができますので……♡ んっ♡」

「はあ、んっ♡ ああっ♡ すっごく締まりますねえっ♡ んんっ♡ おちんぼはだらしがないのに、アナルはこんなにイイなんて♡ アナル、ズボズボされるの……気持ちいいんでしょう？♡ んっ♡ はあ……ふふっ♡」

「でないと、こんなに簡単に聖根を啜えこめないですよ？♡ んあっ♡ 吸い付くようにおちんぼを締め付けてきますねえ……♡ これなら、すぐにでも……んんっ♡ 祝福を与えてあげれますよお……んんっ♡ ハアッ、ハアッ……ふあッ……んっ、んあっ、はう……スん、スん……ふっ、っふあ、んんっ♡ はあ、はあ、あうんっ♡」

「いいですよお♡ んんっ♡ 本当に、すっく、イイ……♡ あっ♡ んんっ♡」

「おちんぼ大好きなんですわねえ♡ んんっ♡ ズボズボされるたび、女の子みたいにあんあん鳴いて♡ 勃起しちゃってるんですもの♡ んんっ♡ でも、そのおかげで……はあはあ、私はもうすぐ射精できそうです……んあっ♡ はあ、はあ、んんっ！♡」

「信徒さんの体を感じやすくてよかったです♡ はあはあ……んんっ♡ 奥の方に、いっぱい出してあげますわねえ♡ んんっ！♡ しっかり、受け取ってくださいっ♡ あっ♡ もうっ、イキますうっ♡」

「んんんっ！ あっ♡ あっ♡ あっ♡ 出るっ♡ 出るうっ♡ おちんぼからっ♡ 精子出ちゃううっ！♡ んぐっ♡ んんっ！♡ んんんんあああああつっ！！♡♡♡」

「ああっ♡ すごいっ♡ 搾り、とられるうっ……んんんっ♡ はあ、はあ、んあっ……あら？ あらあらあら♡」

「信徒くん……一緒に射精しちゃったんですか？♡」

「せっかく私が洗礼をしてあげて、穢れを祓ったというのに……すぐに射精しちゃうだなんて……本当にだらしなのおちんぼなんですわねえ……♡ ふふふふふっ♡」

「でも、安心してくださいわね？ 先ほども伝えたとおり、キミの奥にまた私が祝福の射精をしてあげればいいこと、ですの♡ よかったですわね♡ ふふふっ♡ だらしなないキミのおちんぼが射精しなくなるまで、何度でも出してあげますよ♡ 私のおちんぼは神から賜りし特別性ですので……♡ 回数心配はしなくてもいいですよ♡」

「はあはあ、んんっ♡」

「いっぱい突いてあげますっ♡ ロウソクが尽きるまで、ずっとずっと♡ ふふふっ♡」

「んんっ♡ ああっ♡ また締め付けが強く……んんっ♡ そんなにアナルずぼずぼされるの、嬉しいんですか？♡ んんっ！♡ はあはあ……いい、ホントに素敵……♡ このアナル、すごいですよお……んんんっ♡」

「あっ♡ 締まるうっ……んんっ！ これなら、またすぐに、射精できますよお……んんっ！♡ はあはあ、あうんっ！♡ はあ、はう……ふー、ふーっ、んっんん……はあ、はあ♡」

「あらあらあら……♡ まだ私が射精してないのに、出しちゃったんですわねえ……♡」

「ふふふっ♡ ええ、ええ♡ 大丈夫です♡ 心配しないで……♡ キミの体から穢れがなくなるまで……♡ 私のせーし、いくらでも注いであげますから……♡」

「んんっ♡ はあはあ、好きだから、射精してくださいわね♡ その分、キミの体を祝福で満たしてあげましょう……♡」

「♡♡♡」